

まなづる 海の月報

トピック 真鶴の海

宣言明けた真鶴の海、体験学習で賑わう



「海の学校」で磯の生物観察を楽しむまなづるの小学校2年生。大ヶ窪にて。

真鶴町の海には、例年多くの小中学校が体験学習や遠足に訪れますが、今年は新型コロナウイルスの影響を受け、中止や延期が相次いでいました。9月末の緊急事態宣言の解除に伴い訪問が再開され、町内の各地で海での活動を楽しむ子ども達の歓声が響き、いつもの賑やかさが戻ってきました。多くの児童・生徒が神奈川県内各地や東京都内から訪れ、磯の生物観察や町立遠藤貝類博物館の見学、真鶴町漁協の指導によるひものづくりなど、海の町ならではの体験プログラムを楽しみました。

まなづる小学校の2年生も、10月に大ヶ窪で「海の学校」を行いました。子どもたちは昨年、1年生だった時も磯の生物観察を経験していて、2年生になった今年は生物の飼育にも挑戦しました。教室に設置された水槽には、カニやヒトデ、小魚が入れられ、子どもたちはエサやりや水槽のそうじなどに奮闘しました。

海中の様子

三ツ石海岸でヒョウモンダコ見つかる

磯の生物観察で、ヒョウモンダコが見つかりました。ヒョウモンダコは、噛まれると命を落とすほどの猛毒を持つ危険生物として知られ、注意が必要です。真鶴では、これまでも数年に1回程度は確認されていましたが、今年は目撃情報が多いようです。本来、ヒョウモンダコは、真鶴よりも温暖な海に生息しますが、最近の海水温の上昇で、真鶴周辺でも数が増えている可能性もあります。

猛毒をもつヒョウモンダコですが、大きさは10cm程度と小型で、危険を察知すると現れる鮮やかな青色の模様が美しく、意外にも可愛い生物です。

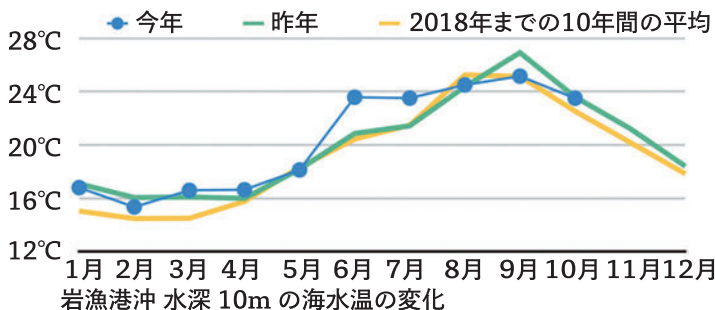


三ツ石海岸で見つかったヒョウモンダコ。刺激を受けて青いリング状の模様が出ている。

真鶴の海況

冷え込む気温、海はまだあたたか

岩漁港沖水深10mの海水温は23.5℃でした。この時期になると、日に日に冷える気温に比べて海水温の低下は緩やかなので、陸上より海中の方が温かくなります。<情報提供：横浜国大臨海環境センター>



まなづるの漁獲情報

定置網漁は不漁が続く



ヒシダイ (体長約20cm)

真鶴町漁協の定置網では、今年7月頃から深刻な不漁が続き、例年ならサバやイナダが獲れる豊漁期の10月も水揚げが戻りませんでした。この状況が続くと漁協始まって以来の最低の漁獲高となる見通しです。

定置網漁が振るわない中、魚市場にヒシダイという珍しい魚が揚がりました。ヒシダイは水深数百mに生息し、キンメダイなどを釣るときに稀にかかる魚で、今回は漁協の組合長さんが釣りあげました。ひし形の体型からその名がついたヒシダイは、水揚げ量が少ないため良い値がつかず格安ですが、味は一級品といわれています。チャンスがあれば味わってみたい幻の魚です。<情報・写真提供：真鶴町漁協>

町立遠藤貝類博物館 11月中旬～12月のイベント

- 11月21日(日) まなづる自然子どもクラブ
「実習船に乗って海の研究を体験しよう！」
横浜国立大学臨海環境センター【要申込・有料】
- 12月10日(金) 海まちらボ 海トーク 講師:最勝寺智子さん(絵本作家)
町民センター3階 講堂【要申込・無料】

町立遠藤貝類博物館は10～12月は土日祝のみ開館しています。詳細はHPをご覧ください。

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HP からダウンロードができます。印刷、掲示・配布歓迎です。